

7月7日(水) / 第6会場 12:00 ~ 13:00 ランチオンセミナー5

"THAにおいて私が選択するインプラントとその設置角"

パシフィコ横浜ノース3F

部屋名 G316+317

日整会単位【11】

座長；佐藤 貴久先生
(善衆会病院 整形外科)



板橋中央総合病院 整形外科 久留 隆史 先生
Dept. of Orthop. Surg., Itabashi Chuo Medical Center
Dr. Takashi Hisatome

共催：第51回 日本人工関節学会/コリン・ジャパン株式会社

Corin

Connected Orthopaedic Insight

"THAにおいて私が選択するインプラントとその設置角"

人工股関節 (THA) 分野における素材の改良は、股関節の痛みを悩む患者さんにとって朗報と言える大きな進歩であった。ひとむかし前は人工関節の寿命は10年、長持ちして20年という認識であった。しかしながら、2000年代以降に置換されたTHAにおいては、10年で95%、20年で90%の累積生存率であると言われている。成績の向上とともに手術適応年齢も下がってきているように思う。以前は「60歳になったらTHAを考えましょう。もう少し痛みは我慢してください。」と患者さんを諭しながら待機させていたものが、最近では「50歳過ぎればTHAを考えてはどうですか？ もう痛みから解放される時では。」と言って手術をお勧めしている。勿論、安易なTHAへの移行は厳に慎むべきであることは理解しており、患者個々の病期・活動性・年齢等を考慮して判断しているが、早めのTHAによって患者自身の生活様式の劇的な改善も経験する。

一方、50歳代で痛みから解放された患者は、「スポーツがしたい」「力仕事に復帰したい」「何も気にせず生活したい」などの意欲を持ち大きな活動性への要求も高い。それらの希望を満すためには、今まで以上の低侵襲性、筋力温存手技、脱臼抵抗性などが要求されるであろう。当施設では筋腱完全温存にこだわってALS THAを行ってきた。さらに2016年以降は関節包靭帯も部分温存しており、X線学的術後成績も短期ながらも成績良好である。術後の禁止肢位の設定も行っておらず、追跡可能であった700例以上の症例での脱臼率は0%であった。

本セミナーでは私が選択するインプラントと手術手技のコツとピットフォール、さらにインプラントの適正サイズと設置角の決め方について詳細に解説する。本セミナーを聴講していただくことが、ALS THAの導入もしくはさらなる筋腱温存手術の確立への一助となれば幸いです。



板橋中央総合病院 整形外科 久留 隆史 先生
Dept. of Orthop. Surg., Itabashi Chuo Medical Center
Dr. Takashi Hisatome

共催：第51回日本人工関節学会/コリン・ジャパン株式会社

※共催セミナーの整理券制有無については2021/6/1時点で未定です。
連絡が有り次第、ご案内いたします。



coringroup.com

© 2021 Corin P No JSRA
2021-7-7